

しんぎよう

浄土真宗本願寺派（西本願寺） 真楽寺報

令和四年六月

和国わこくの教主きょうしゅ聖徳皇しやうとくおう

広大恩徳こうだいおんとく謝しゃしがたし

一心いっしんに帰命きめいしたてまつり

奉讚ほうざん不退ふたいならしめよ

（親鸞聖人『正像末和讚』）

今年ことしは聖徳太子しやうとくたいしが亡なくなられてから、一千四百年せんしよひゃくしよねんにあたります。本願寺ほんがんじでは昨年こぞの四月しがつに太子たいしの一千四百回忌せんしよひゃくしよじの法要ほふうをお勤おごんめしています。親鸞聖人しんらんしやうじん以来いらい浄土真宗じやうとしゆまうでは聖徳太子しやうとくたいしを尊崇そんじゆんし続けてつづけているのです。

聖徳太子しやうとくたいしは日本の史上しやうじゆ最も有名めいめいで且かつつ敬愛けいあいされてきた方かたです。今いまでは、その名前なが消きえられそうになったり、存在そんざいすら否定ひていされそうになったり、大変たいへんな様よう変わりですが、昔むかしは財布さいふの中ちゆうにまで入いって下くださるほどに身近みぢかな存在そんざいでした。（私の財布さいふにはほんの時折ときわきいらっしやいました。）今いまの一万円札いちまんえんしやはどなたでしたっけという程度ていどですが、かつては最高額さいこうがくの紙幣しへいを「聖徳太子しやうとくたいし」と言いってみたりするほどに、世俗せきよくの極まりの中ちゆうでも大切にされてきた方かたでした。

そのような事こととは全く別次元べつじゆん

浄土真宗本願寺派（西本願寺）
真楽寺報

令和四年六月

の話わたりごとですが、親鸞聖人しんらんしやうじんは、聖徳太子しやうとくたいしを最大級さいだいきゆうの尊称そんじゆんを以もつて呼びかけられています。「和国わこくの教主きょうしゅ聖徳皇しやうとくおう」、すなわち聖徳太子しやうとくたいしは日本にっぽんのお釈迦様しやくかさまと言いいきつておられるのです。聖徳太子しやうとくたいしは親鸞聖人しんらんしやうじんの生きられた時代じだいからさらに六百年むっぴゃくねんも昔むかしの方かたですから、当然たうぜん直接じきやくのお出遇いでぐいいはないのですが、聖人しやうじんは七十五首しちじゆごしゆの『皇太子聖徳奉讚』、百十四首ひやくしよじゆの『大日本国栗散王聖徳太子奉讚』に太子たいしの伝説でんせつ、行実ぎやうじつ、事績じじゆんを讚ほめえ、そして『正像末和讚』中に収められた『皇太子聖徳奉讚』十一首じゆいちには、太子たいしのご一生ごいちじゆが本願力ほんがんりきを顕あして下くださったものとして讚ほめ嘆なげされています。更に『上宮太子御記』を書かれ太子たいしへの尊崇そんじゆんの念ねんを著あしておられるのです。

七十五首『皇太子聖徳奉讚』の一首目いしよめは、「日本国帰命聖徳太子 仏法弘興の恩ふかし 有情救済の慈悲ひろし 奉讚不退ならしめよ」という御和讚ごわざんで始はじまります。有情うじやうとは情じやうあるものと言いうことですが、無常むじやうの世間よに惑まどい、思おもいのままになら自身みづか

の命いのちに悲喜ひき苦楽くらくを重ねながら生きる迷まどいの姿すがたを表あらわされたものです。情じやうあるものを救すくい助たすける深いお慈悲ひらみを施ほして下くださったのが聖徳太子しやうとくたいしのご一生ごいちじゆです。それは、『三経義疏』に示された御教化ごけわ、四天王寺しよてんわうじや法隆寺ほつりゆうじなど多くの寺院じゆんいんを建立たうけんし仏法ぶつぽうを弘ひろめられたこと、そして、憲法けんぽう十七条じちじゆに表あらわされている仏様ぶつさまを敬うやめ仏法ぶつぽうを抛なり所ところにした生き様いきさま等らのご事績じじゆんから明らかあかです。それらによつて、日本にっぽんを仏様ぶつさまの願ねがいが響ひびく国くにに仕上げて下くださったのです。

の命いのちに悲喜ひき苦楽くらくを重ねながら生きる迷まどいの姿すがたを表あらわされたものです。情じやうあるものを救すくい助たすける深いお慈悲ひらみを施ほして下くださったのが聖徳太子しやうとくたいしのご一生ごいちじゆです。それは、『三経義疏』に示された御教化ごけわ、四天王寺しよてんわうじや法隆寺ほつりゆうじなど多くの寺院じゆんいんを建立たうけんし仏法ぶつぽうを弘ひろめられたこと、そして、憲法けんぽう十七条じちじゆに表あらわされている仏様ぶつさまを敬うやめ仏法ぶつぽうを抛なり所ところにした生き様いきさま等らのご事績じじゆんから明らかあかです。それらによつて、日本にっぽんを仏様ぶつさまの願ねがいが響ひびく国くにに仕上げて下くださったのです。

そして、なにより親鸞聖人しんらんしやうじんは太子たいしゆかりの頂法寺ちやうぽうじ（六角堂むかくだう）において、観音菩薩くわんおんぼさつの示現しげんによつて念仏ねんぶつの人生じんじゆを歩あむべしという、大きなお勧めおまめを頂たかめられています。それを機きに二十年間歩あんでこられた修行しゆぎやうの道みちを捨てて、法然聖人ほつぜんしやうじんがお勧めおまめ下くださった真実まじつ信心しんじんの上に称なえる南無阿弥陀仏なむあみだぶつを喜よろこんでいかれたのです。

この二十九歳しゆじゆさいの時ときから半世紀はんせいきも過ぎた八十代半しちじゆだいはんばの聖人しやうじんが、二百首にひやくしゆもの和讚わざんで聖徳太子しやうとくたいしを讚ほめ仰あがめられているのです。それは、それほど広大な恩徳おんとくを感じておられたからに違ちがいありません。聖徳太子しやうとくたいしを観音菩薩くわんおんぼさつの化身けんしんとして崇あがめていく太子たいし信仰しやうぎやうは、親

鸞聖人しんらんしやうじんより前の時代じだいからありましたが、聖人しやうじんの晩年ばんねんには、太子たいし信仰しやうぎやうの要素ようそを取り入れた真言律宗しんげんりつしゆが大きく広まり、関東くわんとうの宗祖しゆしゆの御門弟ごもんていの間まにも影響えいぎやうが及およんでいるようです。

鸞聖人しんらんしやうじんより前の時代じだいからありましたが、聖人しやうじんの晩年ばんねんには、太子たいし信仰しやうぎやうの要素ようそを取り入れた真言律宗しんげんりつしゆが大きく広まり、関東くわんとうの宗祖しゆしゆの御門弟ごもんていの間まにも影響えいぎやうが及およんでいるようです。

聖人しやうじんはそのような状況じやうきやうにあつて、なぜ聖徳太子しやうとくたいしを尊崇そんじゆんするのか、その意味いみを誤あやりなく伝えるために沢山たくしやんの御和讚ごわざんや、『御記』を著あして「聖徳太子しやうとくたいしは、この国くにに仏法興隆ぶつぽうきやうりゆうの礎いしを築たき自ら慈悲ひらみを行なじて下くださったその姿すがたで、一切いっけつの生きとし生なけるものを救すくう阿弥陀如来あみだにがらのはたらきを示しされたのです。だからこそ、今は念仏ねんぶつが盛さかんに弘ひろまったのです。」と、お同行方おどうぎやうかたに語かたられていたのではないでしょうか。

いのちあるもの全てを慈あしむ阿弥陀如来あみだにがらの大慈悲だいひらみ心しんに出遇いでぐいつたひとには如来にがらのはたらきが現あれます。そのすがたが縁えんある人を仏道ぶつだうに導みちいていくのです。聖徳太子しやうとくたいしは全国ぜんこくに太子たいし信仰しやうぎやうが拡ひろがるほどの菩薩ぼさつのはたらきをなし、この世よの命いのちを終おえても尚なほ有情うじやうを導みちき続けておられます。

この太子たいしの恩徳おんとくを知るならば、一心いっしん帰命きめいの信心しんじんを身に現あしながら、奉讚ほうざん不退ふたいの御恩報謝ごおんほうしゃを重おもねて行くことをお勧め下くださる御和讚ごわざんです。